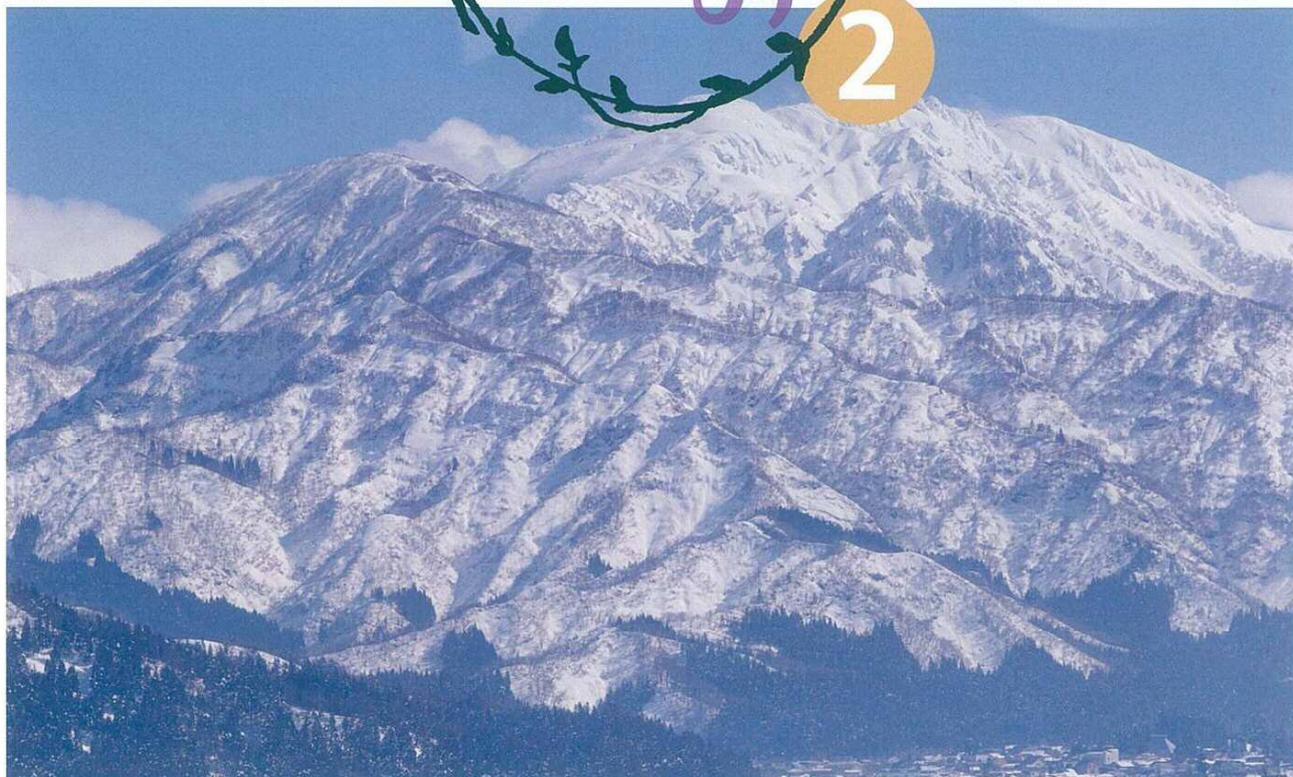


南無阿弥陀仏は  
私のいのち



〒110-0012 東京都台東区竜泉 1-20-19  
発行所 真宗 佛光寺派 西徳寺  
TEL 03-3875-3351 FAX 03-3875-6796  
<http://saitokuji.tobihiro.jp/>  
発行人 脇阪 義幸  
印刷 日生印刷(株) 03-6863-3263



## 受け継がれてきた道場

西徳寺の本堂は安政四年・大正十二年の震災と、昭和二十年の戦災によって三度焼失した。何度も存続の危機を迎えたが、そのたびに多くの御門徒の方々の手によって再建されてきた。

それではなぜ、再建されてきたのだろうか。それは親鸞聖人のお言葉にかえせば、「ひとえに往生極楽の道を問い聞きたい」と願うからであろう。その願いは目立たないが、いつまでも往生極楽の道を聞く道場であって欲しい、そうして今日まで維持されて続けてきたのである。

ところで、これは関東に住む方々が当時京都に住む親鸞聖人のもとへ、念仏の教えを再び尋ねたときに言われた言葉である。親鸞聖人ご自身は、よき人の仰せをただ信じるだけだと続けて述べられ、それは誰か特定の人を指すのではなく、人から人へと続けて受け継がれてきたのだと説かれた。

本堂内には寄進者の名前が至る所に並んでいることから分かるように、本堂は多くの方によって受け継がれてきた。仏法はたくさんのおよき人から学ぶ、そしてそれこそ往生極楽の道を聞き開く生活なのだと感じている。

(高橋 淳記)



## 世界最古の神話 西徳寺で初公演

このたび奉納上演いたします「イナンナの冥界下り」は、今から五千年以上も前から伝わっている世界最古の神話のひとつです。

チグリス川とユーフラテス川にはさまれたメソポタミアに、イナンナという女神がいました。彼女は愛の女神であるとともに、戦いの女神でもあり、また人々が暮らす地上をも統治する女神でもあり、神々の住まう天界も統治するという最強の女神でした。

そんなイナンナがある日、唯一統治していなかった死後の世界に心ひかれ、冥界へと旅立ちます。冥界は彼女の姉が統治する国。突然、訪れた妹に、冥界の女王である姉は大いに怒り、死を宣告します。イナンナがいなくなった地上では草木が枯れ、さまざまな悪しきことが起こります。

イナンナは無事に冥界から帰還し、神々や人々は以前の生活を取り戻すことができるのか。

『古事記』のイザナギの冥界下りやギリシャのオルフェウス神話にもつながる世界最古の冥界下りの神話です。文字がなかった時代、人々は芸能という形で、その記憶を伝えていきました。「イナンナの冥界下り」も本来は芸能として上演されたものでした。

本公演では、現在確認し得る最古の言語であるシュメール語と日本語で、そして現存する世界最古の演劇形式である「能楽(能・狂言)」を軸に、人形師、浪曲師、オペラ歌手、ライアー奏者、打楽器奏者というさまざまなジャンルの芸能者が相まって祝祭空間を創り上げます。

さまざまな芸能の方たちの眠る西徳寺さんで、この「イナンナの冥界下り」を上演させていただけるのは望外の喜びです。

本作品は東京都(アーツカウンシル東京)の助成により、2017年にはイギリスの大英博物館、フランスのルーブル美術館などで上演すべく準備を進めております。  
(安田 登 記)

### 『イナンナの冥界下り』 西徳寺公演

期 日・平成28年4月13日(水)

午後7時開演

会 場・西徳寺本堂

入場料・5,000円

(申し込み順先着 50名様限定)

※予約申込は西徳寺まで

TEL 03-3875-3351 (担当: 高橋)

# 親鸞さんのことば

七宝講堂道場樹  
方便化身の浄土なり  
十方来生きわもなし  
講堂道場礼すべし。

『浄土和讃』

松井憲一

このご和讃は、浄土の莊嚴 安らぎの世界を讃えています。浄土の莊嚴は、色もなく形もないまことの世界が、われらに響いて浄土に生まれようと願えるようにと、色と形でかたどって表してあるのです。それで、お浄土は、「七宝講堂道場樹」と講堂や樹木や庭があり、飾りは金・銀・瑠璃などの七種類の寶石からなっていると説かれています。そしてその「七宝講堂道場樹」は、すべて「方便化身の浄土」といわれます。

方便は、『古語辞典』（講談社）によると、「①仏語・仏が衆生を教え導くための便宜上の手段」と説明されています。つまり方便は、日常語でいう「うそも方便」ではなく、自分中心の

価値観にとらわれているわれらを教え導いて、南無阿弥陀仏に出遇わせる仏の「有相（相・形を表した）の方便」なのです。

お寺やお仏壇の整った美しい莊嚴は、有相の方便としてわれらをその場に座らせ、こころ静かに手を合わせ、お念仏するご縁を創りだします。「念ずれば花ひらく」の詩を残した坂村真民さんは、九十を越えてから毎日、「しつかりしろ真民。まだまだこれからだ」とノートに書きつけ、毎朝お線香をあげるときに、「自分の心にも火をつける」といつておられたそうです。

元旦には、お寺の修正会にお参りし、家族そろってお仏壇にお参りされたと思いますが、こころを新たに尊ぶことが今も続いているでしょうか。続かないのは、多忙で弱いからだといわねをしたくなりますが、三女の西澤真美子さんは、真民さんの姿勢を「自分が弱い人間であることをしつていたのだと思います」といわれています。われらは、老いも若きも弱さを受け入れることができず「仏前で 孫が真似する 五郎丸」と、お仏壇の前でも強くなる望みをもちます。しかし、どれほど望んで

熱心に拝んでも、みな同じように向上するとはかぎりません。

それで、お参りしてはますます思い通りに願いますが、それは念じられていることを忘れた個人の描くバラバラの世界ですから「方便化身の浄土」といわれます。だから、親鸞聖人は、「方便化身の浄土なり」に、「ヘンジ（辺地）、ケマンコク（懈慢国）ナリ、ギワク（疑惑）、タイシヨウ（胎生）ノ、シヨウ（生）ナリ」と左訓されて、それは真実の報土（浄土）ではないとはつきり区別されるのです。

阿弥陀仏の智慧に照らされると、思うように頼む自己肯定の信の世界は、公明正大な明るい世界（浄土）ではなく、辺地（辺境）しか通じない狭い世界、懈慢国（怠け者で威張り屋の世界）、疑惑（仏智を疑う半信半疑の世界）、胎生（胎内の赤ちゃんのように閉じられた暗い世界）といわれます。しかし、この辺地・懈慢国・疑惑・胎生という教えは、救いようのない世界として切り捨てたためにあるではありません。本願の念仏に遇いながら、念仏することで、自分の理想郷を願うというあくなき矛盾の繰返しを再教育する道場として開かれているのです。

聖人は、講堂に「ナラウイエ」と左訓されるように、お寺やお仏壇の道場に、「十方来生きわもなし」と、あらゆる方向から、聞法者が習いに来るといわれます。いろいろな人が、聞法の座につき法に耳を傾ければ、仏さまのまことの世界に向くご縁が増えますから、さらに夢見る自分が問い直されます。それで、このような方便を設けられた阿弥陀仏を尊んで、「講堂道場礼すべし」と寺院やお仏壇にまで来ておられる、阿弥陀仏を礼拝しお念仏に再会せよと勧められるのです。



# 山門の言葉

## 「難民」とは 現実の我が身だ

毎日のように、シリアを中心とする難民の苦悩が放映されているが、ISの自爆テロをはじめ恐怖の日々、生き抜く術はあり得ず、ついに国を棄て他国に逃れる決断。同じ地球上に住む人間同士のなんと悲しい地獄絵図であろうか。着の身、着のまま巨大なゴムボートに乗り込む女性たちの姿、毛布にくるまって震えている乳幼児を見るにつけ身に詰まされる。更に受け入れてくれる確約もないまま、定員をはるかにオーバーし数人がひしめく難民船、先を競うように漕ぎ出していく。途中、荒波に飲み込まれ海底に沈んだ痛ましい事件は枚挙に暇がない。

ふと行き詰まらない人生、ゆとりのある生活が幸せなのだろうか、難民の生活に触れるにつけ思わず我が身の日常、生き様の生ぬるさを知らされてくる。

親鸞聖人のみ教えに、善導大師のお説きくださった「三定死」のたとえがある。求道者が道を求めて歩み出そうとすると死の淵に直面する、ここに立ち止まるも死しかない、後ろに引き下がるも死、いずれにあつても死から免れることができない事実を押さえてある。難民の身に現れている求道の道、我々の身に出てこない曖昧な人生を痛烈に指摘されているのではないだろうか。

我々もゆとりがある人生を実現し、たく努力しているが、いくら調べても人生は行き詰まるのではないか。難民の苦悩の姿から、我が身の生ぬるさ、いのちがけのない日頃に気づかされるのだ。(大谷 義博 記)



### えこお志お礼

文京区 官林 以智子 様  
北区 高橋 昭子 様  
葛飾区 宮崎 秀夫 様  
墨田区 神谷 和利 様  
葛飾区 札木 良明 様  
草加市 代田 勝子 様

ご浄財を頂戴いたしましてありがとうございます。  
ご芳名の掲載をもってお礼とさせていただきます。

### 日誌

12月16日 婦人会聞法会  
責任役員会  
『唯信鈔』に聞く  
講師 宗 正元師  
12月17日 定例聞法会  
評議員会定例役員会  
12月19日 宗祖忌  
12月27日・28日 歳暮法要  
12月31日 修正会  
1月1日 中興忌  
1月7日・8日 混声合唱団「エコー」練習  
1月9日 婦人会新年会  
1月10日

# えこお 婦人会ボタリ

第 317 号

## 婦人会新年会報告

去る1月10日婦人会新年会を38名の参加をもって迎えることが出来ました。暖かなよい天気にも恵まれ、元気で明るい会員の方々と交わす挨拶が嬉しかったです。

高寄副会長の司会進行のもと勤行、そして太田会長の挨拶、続いて12月1日に住職に着任された脇阪住職様のご挨拶、大谷最高顧問様から新年のご挨拶を頂きました。お二方から、聞法を通して学び、前向きに現実を見ようというお言葉を頂戴致しました。

引き続き梅檀の間で、1～5班の理事により懇親会が進められました。恒例のビンゴゲームで一気に賑やかになり、初参加の脇阪住職様は少しビックリポンのようでした。最後に「1月1日」の合唱、大谷最高顧問の三本締めでお開きとなりました。良いスタートを切ることができました。(役員 記)



## 次回聞法会のご案内

日時 平成28年2月17日(水) 午後1時～3時

場所 西徳寺 星月の間

法話 法語カレンダーに聞く

「生きとしいくるものすべて このみひかりのうちにあり」

大谷最高顧問・山崎 哲

## 婦人会総会・懇親会のご案内

日時 平成28年4月27日(水) 午前11時

場所 総会～西徳寺本堂、懇親会～梅檀の間

## 都々逸

着いた三つ指どンドン伸びて 家を取られる半世紀 桂子  
孫の歳玉袋に入れて 会う日まってる年の暮れ 慶子  
ワクワクしてたマイナンバー 見事小さな文字に泣く 多美子

## ひとこと

申年には暖冬が多い(?)という話を聞きますが、お正月に春の訪れを知らせる菜の花開花の話題には驚きました。そんな中、ようやく寒さが本格的になりました。

世界には四季がある国は勿論ありますが、特に「日本は四季が感じられる国」と多くの人が思うのは、古くから四季にちなんだ文化や風習、行事などを大事にするところ、『四季愛』を誰もが持っているからだと思います。

春にはお花見、夏の海水浴、お盆、秋には紅葉し冬が到来。歳神様を迎えるお正月から節分が終わると、また新しい季節の始まり・・・

近年の天候異常が気になりますが、後世にもこの素晴らしい日本の四季が残せるよう、四季を楽しむ傍ら、自然を大事にする努力もしなければいけませんね。(高寄 勝子)

～訂正～

「えこお」

12月号の

年間行事予定に

7月27日の

婦人会聞法会が  
抜けておりました。

ご予定

お願いいたします。

# 掲示版

平成28年 2月

- 6日(土) 午後1時 社交ダンス練習会  
午後3時半 混声合唱団「エコー」練習
- 7日(日) 午後2時 城東ブロック会間法会  
(市川・八幡神社)
- 14日(日) 脇阪住職継職奉告法要
- 17日(水) 午後1時 婦人会間法会
- 20日(土) 午後1時 社交ダンス練習会  
午後1時半 定例間法会  
午後3時半 混声合唱団「エコー」練習  
午後6時 青年会主催  
蓮井邦宗君結婚祝賀会
- 21日(日) 午後2時 城南ブロック会間法会  
(馬込・東京イン)
- 23日(火) 午後1時半 『唯信鈔』に聞く  
講師 宗正元師  
午後7時 仏教青年会座談会
- 27日(土) 午後6時 同行会「現代の聖典」に聞く  
法話 高橋 淳

## 修正会報告

例年よりも穏やかな朝を迎えた元日、早朝6時から本堂において修正会をお勤めいたしました。脇阪新任職を迎えて初めてのお正月、昨年よりも大勢の参詣をいただき、皆様と一緒に『正信偈』をお勤めしました。

脇阪住職からは「不思議な出遇いを大切に、多くの方に支えられ、お育てをいただいていることに深く感謝して過ごしましょう」という年始の挨拶がありました。その後、会館の「栴檀の間」に場所を移し、お雑煮やお酒をいただきながらビンゴゲームで素敵な商品を射止めたり、子供たちには(ご年配の方まで)住職からお年玉が配られるなど、とても楽しい時間を過ごすことができました。(木村 専正 記)

## 仏具磨きのお誘い

3月22日(火)に春季永代経法要を迎えるにあたって、恒例の仏具磨きを行いたいと思います。本堂のお荘厳や御内仏の仏具磨きや、参詣席や会館の清掃なども含めてご協力いただきたく存じます。本山差向布教も併修されますので、綺麗なお荘厳でお迎えしたいと願っております。

当日は昼食を用意します。是非ともご協力くださいますようお願い致します。

期日 平成28年3月10日(木) 午前10時から(雨天順延)  
場所 西徳寺境内

※参加いただける方は  
3月3日(木)までに  
寺務所までご連絡ください。  
(電話 03-3875-3351)



## 華香所 新職員紹介

12月21日より、台東区入谷に在住の高橋保雄さんが華香所の職員として入寺されました。

高橋さんは昭和29年9月26日生まれの61歳、栃木県喜連川町出身です。縁あって責任役員である青柳庄一様からご紹介をいただきました。前職場



を退職して心機一転、お寺という未知の世界に飛び込んでこられました。家族は奥さんと2人の息子さんの4人家族、入谷に住んで早30年の月日が経つそうです。

高橋さんは旅行が趣味で日本全国を巡り、日本酒(実は種類は問わず)をこよなく愛するナイスガイで、セールスポイントは屈託のない「笑顔」だそうです。どうぞよろしく願い致します。(木村 専正 記)

## 編集後記

あるご葬儀に伺った際に、お身内の方と色々なお話をさせていただきました。私と同世代で、長くサラリーマン生活を続けてこられた中で、「健康に留意したり、家族と過ごす時間も大切ですが、仕事に対して力の出し惜しみはできません」と仰っていました。

与えられた仕事に真摯に向き合う人の言葉に、あれやこれやと理屈をつけては都合良く立ち回ろうとする、身勝手な自分に気づかされました。(主任 木村 記)

西徳寺ホームページアドレス:

<http://saitokuji.tobihiro.jp/>

ゆうちょ銀行お振り込み口座 00120-0-80670 名義 西徳寺

※「えこお」に対してのご意見・ご感想をお寄せ下さい。  
(メールでも結構です)

[saitokuji@ce.wakwak.com](mailto:saitokuji@ce.wakwak.com)